

釜石市教育委員会「地域で育くむ釜石っ子」の成果と課題

取組事業名

- ・ 就学時健診を活用した子育て学習講座
- ・ 放課後子供教室
- ・ 学校支援地域本部事業
- ・ 中高生の学習支援室「釜石 S☆Cram School」

岩手県釜石市

学校名

釜石小学校 双葉小学校 小佐野小学校 甲子小学校 平田小学校 鶉住居小学校
栗林小学校 釜石中学校 大平中学校 甲子中学校 釜石東中学校

※該当する内容に○

活動内容	学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
		○		○	○	
	放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
		○	○	○		
	学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
地域課題に応じた額習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	
		○				

取組概要

【就学時健診を活用した子育て学習講座】

- ・ 翌年度小学校へ入学する児童の保護者を対象に、就学時健診の機会を活用して、生活の基本である健康維持と学習時間の確保のための生活リズム向上の必要性に関する講演会を実施。

【放課後子供教室】

- ・ 4 小学校で放課後における児童の居場所づくりを実施。
- ・ 未だ学区外の仮設住宅等から通学する児童が多数あり、放課後直ちにスクールバスで帰宅せざるをえないことから、帰宅後の居場所づくりを仮設団地と復興公営住宅の各集会施設でも開催した。
- ・ 宿題の指導、自由遊びの見守りのほか、ボランティアによる工作教室や読み聞かせ、児童の企画による地域を巻き込んだイベントなどを実施。

【学校支援地域本部事業】

- ・ 実施ニーズのあった 2 校で実施。
- ・ 生活科、家庭科、総合学習などの授業の支援、放課後学習支援、登下校時の見守り、読み聞かせや図書修繕などを、地域のボランティアの協力を得て実施。

【中高生の学習支援室「釜石 S☆Cram School」】

- ・ 狭隘な仮設住宅など、震災後の住宅事情の変化による学習環境の確保が困難となったことから、自由に来所できる学習の場を確保。
- ・ 週 5 日、平日 16 時～21 時、休日 12 時～21 時で開催。
- ・ 学習支援員の配置、帰宅支援用タクシーの運行で、安心して学習できる場と確かな学力を身に着ける機会を確保。



平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

事業成果

○【就学時健診を活用した子育て学習講座】

- ・早寝早起き朝ごはんの生理的有効性の証明への感想など、生活リズムの必要性について広がりが見られる。
- ・継続して実施してきたことで、兄弟のいる保護者には再度の学習機会になり、あらためて認識を深めたという感想が寄せられている。

○【放課後子供教室】

- ・教室 1 回あたりの参加児童数が、昨年度より伸びており、居場所としての認識が広がっている。

年度	26 年度	27 年度（1 月末現在）
放課後子供教室参加者数/回	9.11 人	11.83 人

- ・放課後児童クラブと近接する放課後子供教室には、児童クラブから来所する児童が多数あり、今後の両者の一体的な運用に向けた弾みになった。

○【学校支援地域本部事業】

- ・地域人材による特色ある教育活動の展開が可能となり、多様な授業を実施できた。
- ・読み聞かせは児童から楽しみに待たれていることが報告されている。
- ・児童と地域住民の交流が深まり、顔見知りの関係になることで学区内での見守りに寄与していると保護者から感想がよせられている。

○【中高生の学習支援室「釜石 S☆Cram School」】

- ・利用者アンケート結果から、9 割近い生徒が釜石 S☆Cram School の利用による何らかの自己変容を認めている。

設問	学習時間が 増えた	学習の習慣が ついた	成績が上がった	学習したい 意欲が出た	勉強以外でも やる気が出た	友達ができ た	あまり変化を 感じない
回答率 (複数回答)	82.22%	26.67%	24.44%	35.56%	11.11%	4.44%	11.11%

課題と今後の取組

- 地域のボランティアの協力により様々な事業が展開できているが、支援回数が増えて負担感を訴えるボランティアも多い。特に保護者は就労によりボランティア活動ができなくなるケースが続いており、新たな協力者を求める努力は継続して進める必要がある。
- 仮設住宅等が解消されない限り学区を越えて児童生徒が流動する社会構造となっており、学校や、ある 1 か所を開催場所とした事業展開は、かえって参加者の限定につながりかねない状況となっている。より家庭に近い場所でのきめ細かい事業展開が求められている。
- 今後の取り組みとしては、より地域の中で児童生徒が過ごす場が作られるよう、市だけの取り組みとせず各種団体の協力を仰ぎながら、子どもの居場所づくりや学習の場が設置されるよう、その方策を検討していく。